

MAKING POTENTIAL A REALITY

2022年12月期 決算補足説明資料（連結）

2023年2月17日
シンクレイヤ株式会社
証券コード：1724


- 0 1** **会社概要・経営理念**
- 0 2** **2022年12月期 決算概要**
- 0 3** **2023年12月期 業績予想**
- 0 4** **今後の事業規模拡大に向けて**
- 0 5** **ESG経営・SDGsへの取組み**

MAKING POTENTIAL A REALITY

GIGABIT NETWORK SOLUTION

01 会社概要・経営理念

シンクレイヤ株式会社

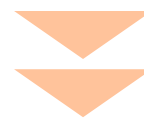
本社	愛知県名古屋市中区千代田二丁目21番18号		
設立	1962年（昭和37年）5月2日		
代表者	山口 正裕（代表取締役社長）		
資本金	8億3574万5393円		
従業員数	170名（グループ全体326名）	※2022年12月末現在	
グループ会社	ケーブルシステム建設株式会社 奥田電気工業株式会社 愛知電子（中山）有限公司		
事業内容	ケーブルテレビシステム及び情報通信システム関連の設計、施工、保守及びコンサルタント ケーブルテレビシステム機器、情報通信システム機器及びそれらの周辺機器の製造、購入及び販売 ケーブルテレビシステム、情報通信システムの導入に関する情報の提供、教育及び指導		

経営理念

わたしたちは、**情報通信分野**において常に最先端技術に挑戦し、高度な機器の提供と**ネットワークシステム**の構築を通じて社会に貢献すると共に、会社の発展と社員の幸せをはかる

社名の由来

ネットワークのあらゆる階層（**レイヤ：Layer**）と同期（**シンクロナイズ：Synchronize**）する



時代と、技術と、人の思いが、
自然とシンクロナイズできる社会を目指す企業

1962

テレビ放送黎明期・難視聴対策

創業者・山口正起が「テレビを売ることよりも、テレビをきれいに観せる」伝送路に関心を抱き、テレビ共聴機器の開発に没頭。

1962年に直列ユニット方式を発明し高層ビルでも1本のアンテナでテレビが観られるようになった。1964年の東京オリンピックを契機に需要拡大。テレビ共聴機器・ケーブルテレビ（CATV）の総合メーカー、システムインテグレーターへと成長。



1996

インターネット登場・サービス拡大

当時インターネットといえば電話回線が主体だったが、ケーブルテレビの伝送路を利用すれば、より高速なインターネットが提供できることが実証された。

日本で初めて商用ケーブルインターネットを開始した東京のケーブルテレビ事業者様の通信インフラ構築を当社が任された。

これを皮切りに全国のケーブルテレビ事業者様に放送・通信のシステムを拡販し、放送と通信両方の技術を活かして活躍する現在の当社の礎となった。



ケーブルモデム 平成8年販売開始

平成7年頃から急速に普及し始めたインターネットは、その通信手段としては電話回線が主体でしたが、ケーブルテレビの伝送路をりようすれば、より高速なインターネットサービスを提供できることが技術的に実証されたことから、ケーブルインターネットが注目されるようになりました。

シンクレイヤはケーブルモデムの高速性が今後のケーブルインターネット、ひいてはケーブルテレビ市場獲得の鍵を握ると確信し、当社は平成8年1月より、米国のLAN-city社（ラン-シティ社/後にノーテルネットワークス社が買収）の毎秒10メガビットという高速性能のケーブルモデムの販売を開始しました。また自社でも上記のブロードバンドLANの技術を活かし、対称型ケーブルモデムの生産に乗り出しました。



2011

2022

放送と通信の融合

放送のデジタル化（圧縮技術の向上など）と、
通信サービスの高度化（光伝送による高速・大容量通信）により、
放送と通信の境目がなくなっていく。

当社は、光伝送に適した機器や通信設備を整え、
伝送路工事を含め多数のケーブルテレビ・通信事業者様に納入している。



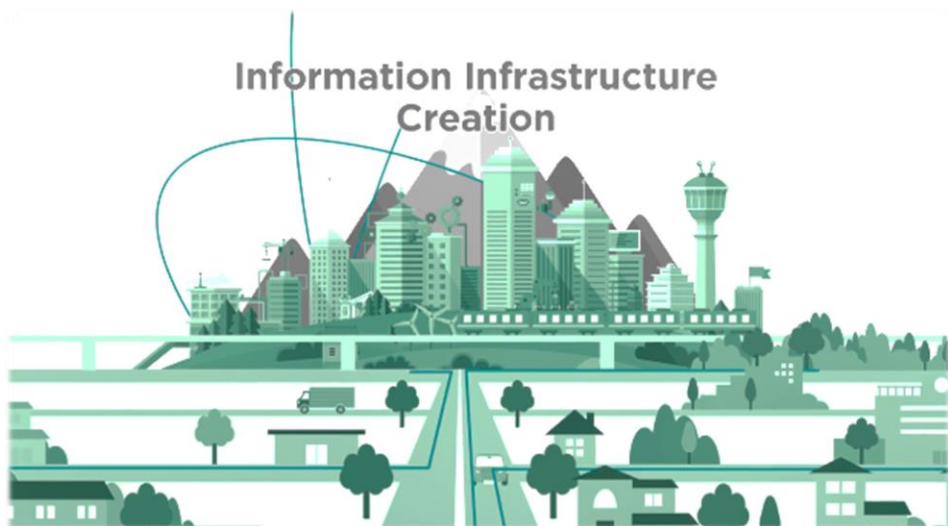
2022

2030

第四次産業革命（Society5.0）が世の中を変革させる

- 技術革新により、様々なモノがネットワークを通じてつながる
- 膨大なデータを扱うことになるネットワークは、更に高度化が進む
- そのためには既存システムのリプレイス／新設が必要、設備投資が継続

ネットワークインフラを支える**当社の重要性はますます高まる**

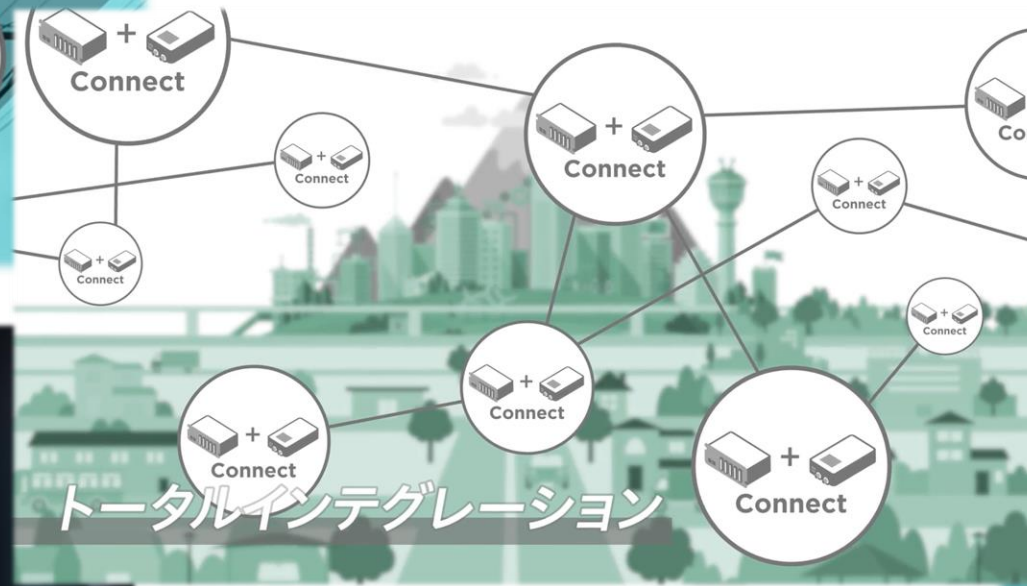


まち全体を覆う大規模ネットワークの構築、ノンストップサービスの実現



ネットワーク設計
申請
施工

設計～施工



24 hours 365 days
Do not stop



ネットワーク構築

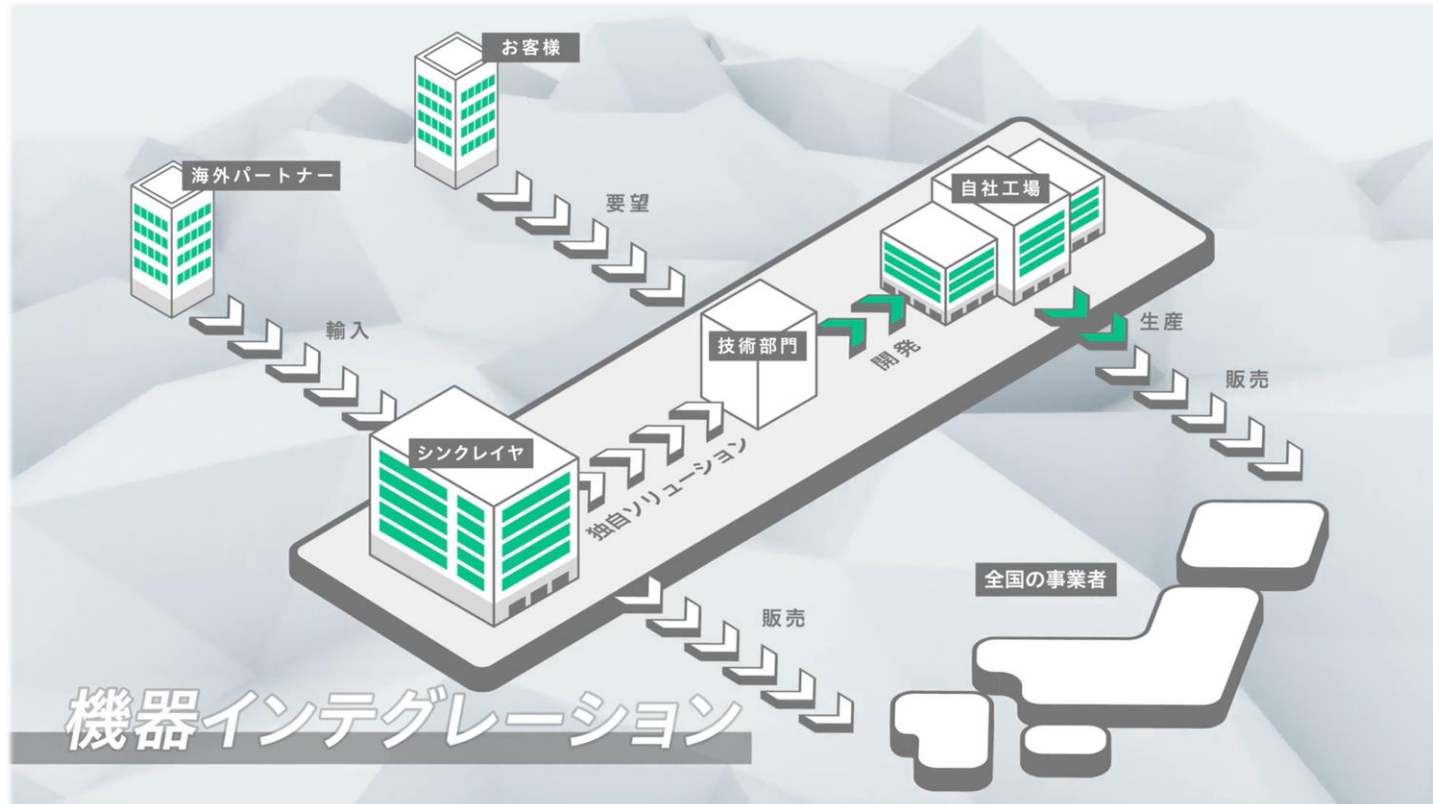


監視装置開発
監視
維持管理

保守・維持管理

トータルインテグレーション

時代にあった最先端の放送・通信機器の開発、製造、販売（BtoB）

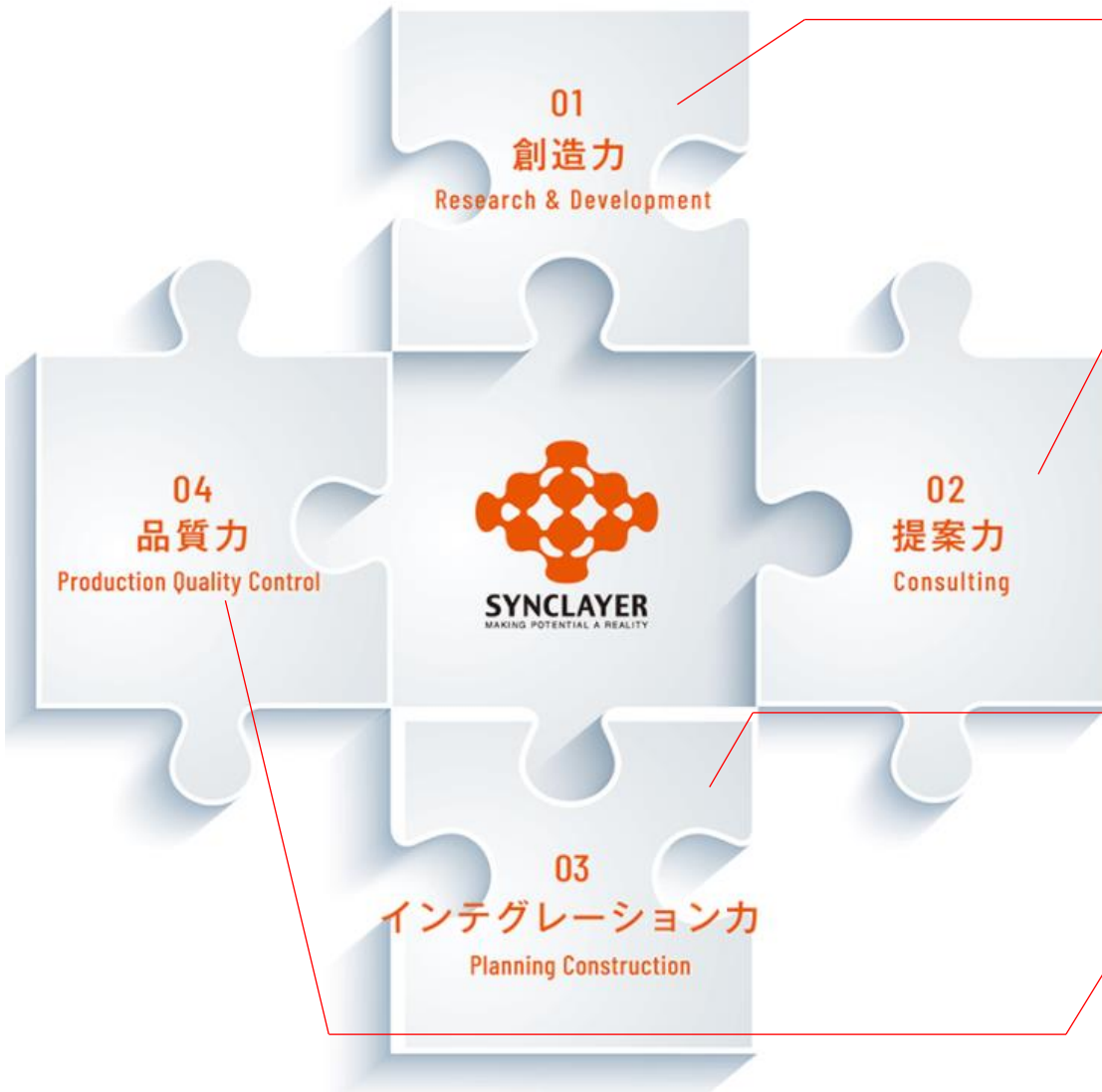


大型装置から小型端末まで



機器インテグレーション

強みをさらに磨き 社会に貢献してまいります



FEATURE
&
STRENGTH
01

開発から設計・生産・販売まで手掛ける創造力

徹底した市場ニーズの分析を基に、社内開発チームの柔軟なアイデアで機器を設計。さらに生産・販売までを一貫して行えるからこそ、事業者のニーズに的確に応えることができます。

FEATURE
&
STRENGTH
02

放送・通信システムの両方に強い提案力

放送と通信の融合時代をむかえた今、事業者にとって新しいビジネスには何が必要か、私たちの提案はそれをはっきりと見据えています。

FEATURE
&
STRENGTH
03

最先端技術を結集させるインテグレーション力

包括的にシステムを構築するために、国内はもとより複数の海外ベンダーとも連携し、最適な機器を組み合わせ、豊富な知識とノウハウで事業者の声にさまざまな角度から応えています。

FEATURE
&
STRENGTH
04

徹底したこだわりが生む品質力

ネットワークに求められるのは、24時間365日安定して稼働し続ける高い信頼性。自社他社を問わず、大切なお客様に納品する製品には厳しい品質基準のクリアが不可欠です。市場で高評価を獲得し続けているのは、その徹底したこだわりがあるからこそです。

MAKING POTENTIAL A REALITY

SMARTER NETWORK SOLUTION

0 2 2022年12月期 決算概要

部品不足等による一部機器の遅れ等が響き、前年同期比減少

	計画比
売上高	： 9,965百万円 (97.7%)
営業利益	： 414百万円 (103.5%)
経常利益	： 438百万円 (104.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	： 294百万円 (101.4%)

- 売上面：中規模工事案件確保に動くも、一部機器の長納期化等が響く
通信系機器販売は一部顧客の機器購買計画変更の影響あり
- 利益面：円安の進行及び世界的な原材料等の部品供給不足の影響により
売上原価上昇

工事案件受注拡大により、受注残高前期比大幅増

受注高

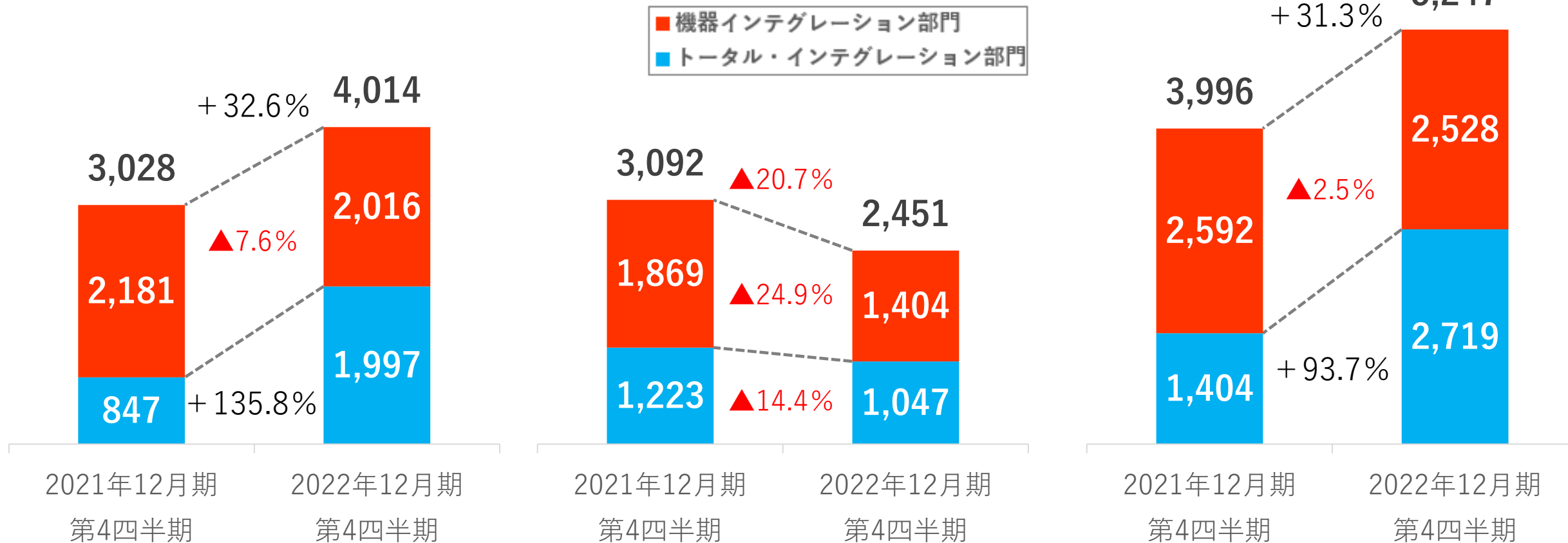
(単位：百万円)

売上高

(単位：百万円)

受注残高

(単位：百万円)

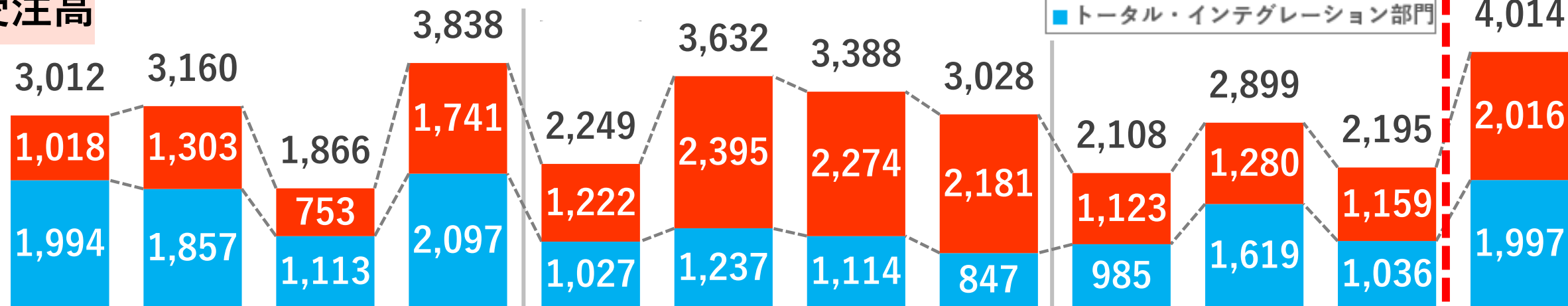


事業部門別 受注高・受注残高推移

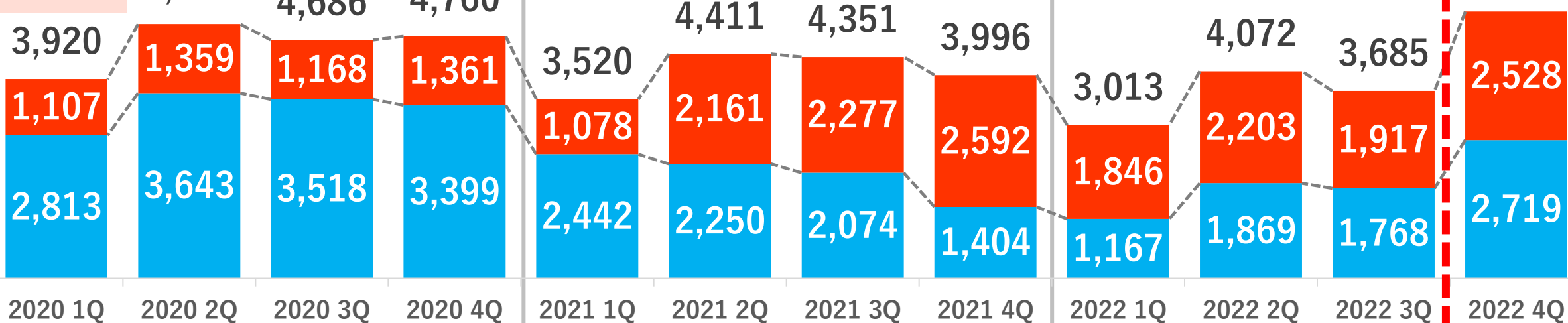
受注高・受注残高共に直近3期で最多

受注高

(単位：百万円)



受注残高



2022年12月期 連結業績（貸借対照表）

流動資産・流動負債が増加も、財務状況は安定的

（単位：百万円）

	2021年12月期 期末	2022年12月期 期末	前期差
① 流動資産	7,112	8,043	931
② 固定資産	3,223	3,289	66
(うち 有形固定資産)	2,190	2,246	56
(うち その他固定資産)	1,033	1,042	9
③ 資産合計(①+②)	10,335	11,333	998
④ 流動負債	4,212	4,930	718
⑤ 固定負債	1,082	1,070	▲ 12
⑥ 負債合計 (④+⑤)	5,295	6,000	705
⑦ 純資産合計	5,040	5,332	292
⑧ 自己資本比率	48.8%	47.1%	-1.7%

【流動資産】 サプライチェーンの混乱に対応するため在庫を手厚く確保する必要があり、棚卸資産が増加

【流動負債】 短期借入金が増加等によるもの。自己資本比率は40%台後半を維持しており財務状況は安定的

MAKING POTENTIAL A REALITY

GIGABIT NETWORK SOLUTION

03 2023年12月期 業績予想

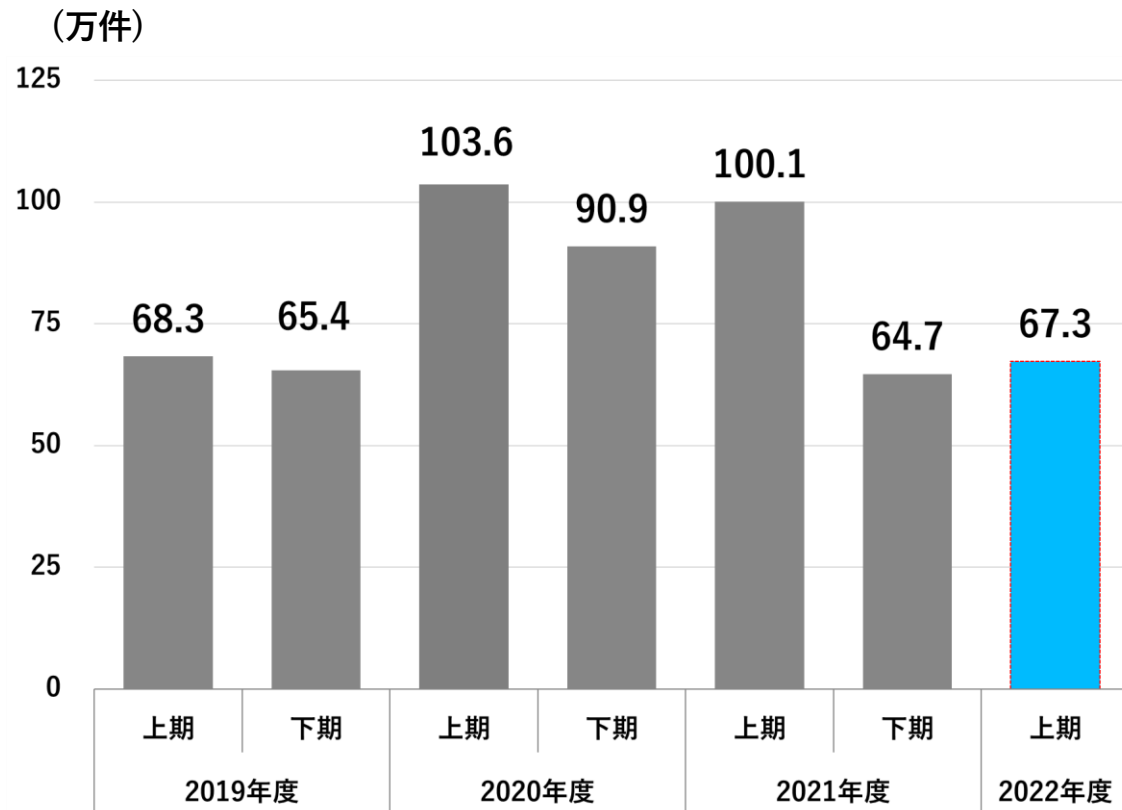
受注状況も堅調であり、前期比大幅増を予想

売上高	：	13,000 百万円	前期比 (130.4%)
営業利益	：	700 百万円	(168.7%)
経常利益	：	710 百万円	(161.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	：	470 百万円	(159.5%)

- 売上面：大型工事案件受注済、引き続き工事受注強化・保守サポート体制確立
通信系機器販売は引き続きキャリア向け販路拡大に努める
- 利益面：世界的な原材料等の部品供給不足、エネルギー等高騰の影響により
引き続きコスト増の懸念

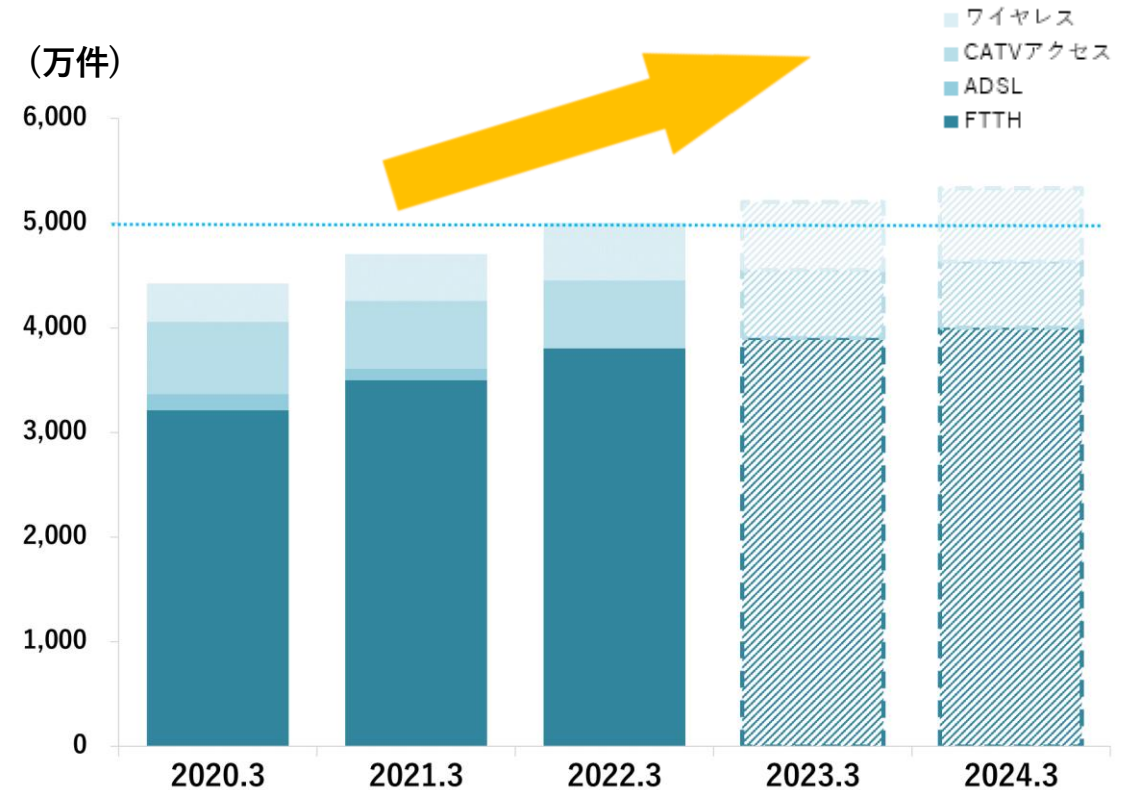
FTTH契約数の純増数はコロナ禍前の水準に戻ったものの、固定ブロードバンド市場全体では継続的な拡大が予測される

FTTH契約数の純増数推移



出典：(株)MM総研「ブロードバンド回線事業者の加入件数調査」をもとに当社作成

固定ブロードバンド契約数の推移・予測



出典：(株)MM総研「固定ブロードバンド契約数の推移・予測」をもとに当社作成

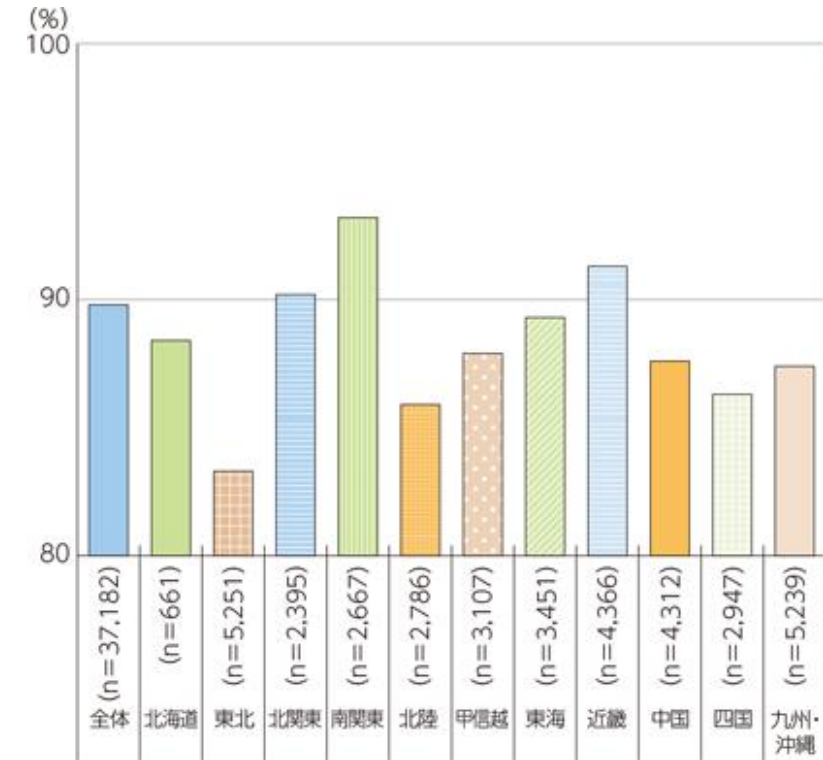
ネットワーク設備の高度化需要に応えるための投資を積極的に展開 2023年12月期着工予定の大型工事案件も受注

【技術開発投資】



技術開発拠点の強化 など
(SYNC Labo 2023年末竣工予定)

【地区別インターネット利用率（総務省資料より）】



利用率が低い地域を条件不利地域とし、
情報通信基盤等の環境整備が進められる

サプライチェーンがやや落ち着きをみせたこともあり、在庫削減と借入金削減によりキャッシュフローの改善へ

① 在庫の削減

■ 製商品在庫及び原材料

・・・ 2022年12月末比 1,300百万円の削減目標

② 借入金の削減

■ 借入金

・・・ 2022年12月末比 1,000百万円の削減目標

これらにより、営業キャッシュ・フローをプラスに
(2022年12月期営業キャッシュ・フロー ▲1,703百万円)

MAKING POTENTIAL A REALITY

GIGABIT NETWORK SOLUTION

04 今後の事業拡大に向けて

2023年12月期までの目標とする経営指標

2021年12月期は計画を大幅超過達成も2022年12月期は反動減
2023年12月期までの3期合計では当初目標ベースとなると予想

(連結・単位：百万円)

	2021年12月期	2022年12月期		2023年12月期	
	計画	計画	2期合計	計画	3期合計
売上高	11,400	11,600	23,000	13,500	36,500
営業利益	610	680	1,290	1,000	2,290
経常利益	620	690	1,310	1,000	2,310

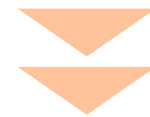
2022年2月14日
公表
業績予想

	2021年12月期	2022年12月期		2023年12月期	
	実績	実績	2期合計	計画	3期合計
売上高	13,061	9,965	23,026	13,000	36,026
営業利益	1,208	414	1,622	700	2,322
経常利益	1,319	438	1,757	710	2,467

2023年2月14日
公表
業績予想(修正)

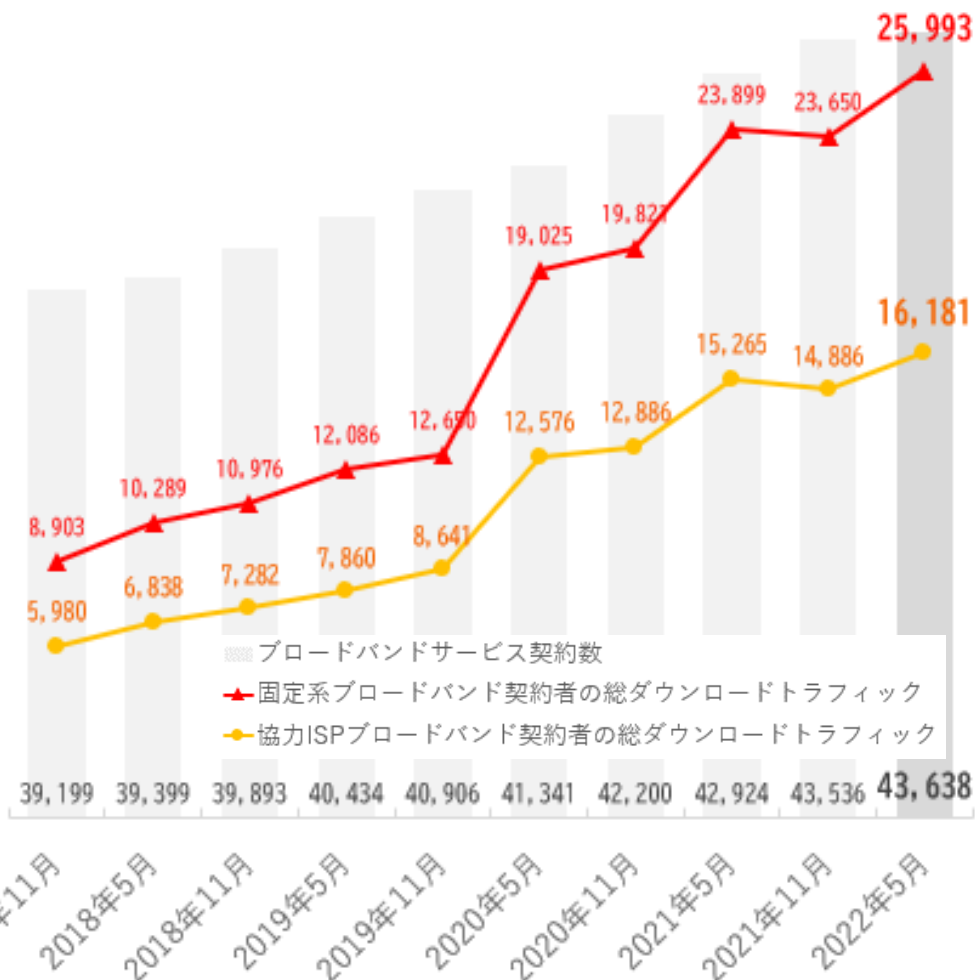
パーパス

つなぐネットワーク、つくるミライ



シンクレイヤーは、当社のパーパスである「つなぐネットワーク、つくるミライ」に基づき、情報ネットワークを通して人々の暮らしと地球環境がシンクロナイズする社会を実現し、笑顔あふれる未来づくりに向けた企業活動を行います。この取り組みを通じ、持続可能な社会への貢献と当社の持続的成長を目指します。

インターネットトラフィックの急速な増加



出典：総務省の資料をもとに当社作成

地域情報や緊急速報のタイムリーな連絡 伝送路の冗長化による持続可能な地域づくり

CATV スマートシティのデータ活用サービス

～ 防災、農業、モビリティをはじめ、様々な分野へ展開 ～

**買い物難民解消
モビリティサービス**

ドローン宅配 制御
無人カーのお迎え
CATVインフラで運用

**農業でもリモートワーク
ローカル5G・地域BWA**

農業用ドローンで
農薬散布・施肥など

**高精度イメージセンサー
による農場監視、
生育チェック**

リモートトラクター

**センサーによる、
水・土壌・天候。
生育などのビッグデータ
収集～栽培管理等**

リモートによる機械監視
運行チェック～修正指示

**リビングルームからの
農業機械の
オペレーションチェック**

省力化

**災害状況をリアルタイムモニタリング
CATVが自治体における災害情報の集約
をサポート**

河川や町中の定点カメラ、センサーからの情報をリアルタイムに把握

ローカル5Gでスマート農業

果樹園などでも
センサーとドローンや
ロボットにて
本来のノウハウ活用へと
専念するオペレーションへ

「省力化」
ノウハウの社会共有とリスクの低減

出典：（一社）日本ケーブルテレビ連盟「2030ケーブルビジョン」より抜粋

低消費電力で再利用可能な材料を使用した 環境にやさしい通信ネットワーク機器開発を推進

10ギガ光インターネットに対応した
高密度・高収容な新型センター装置

無線LAN搭載 高速・高機能な
10ギガ光端末の開発

**XGS-PON
OLT**
MA5800-X7
MA5800-X2



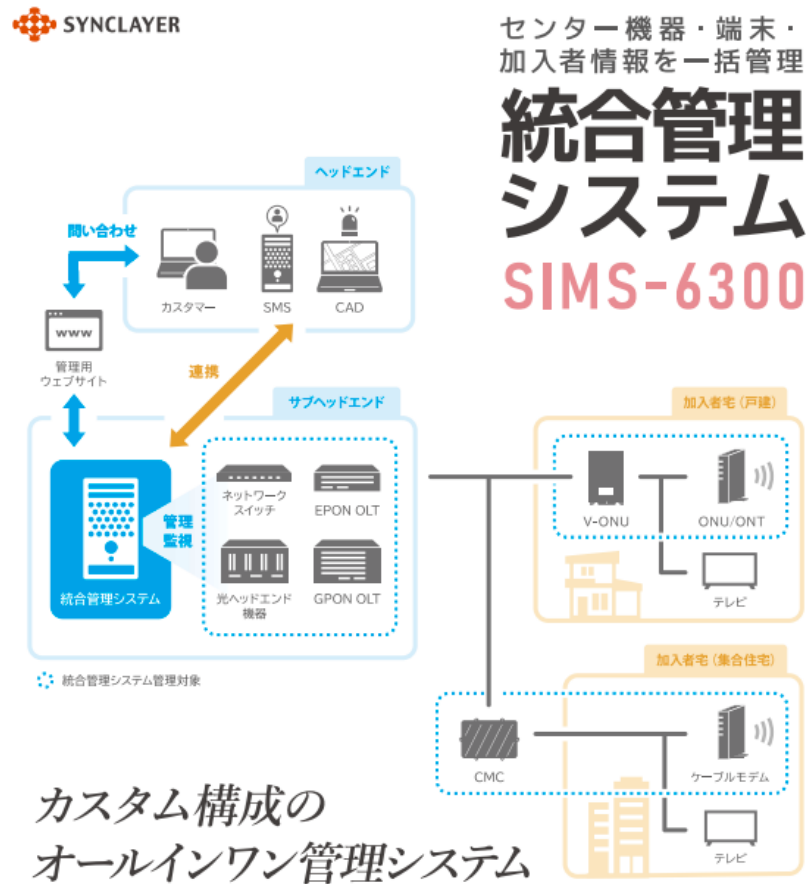
光ネットワークは
10 Gbpsの時代へ

**10G-EPON
OLT**
SGES-6000

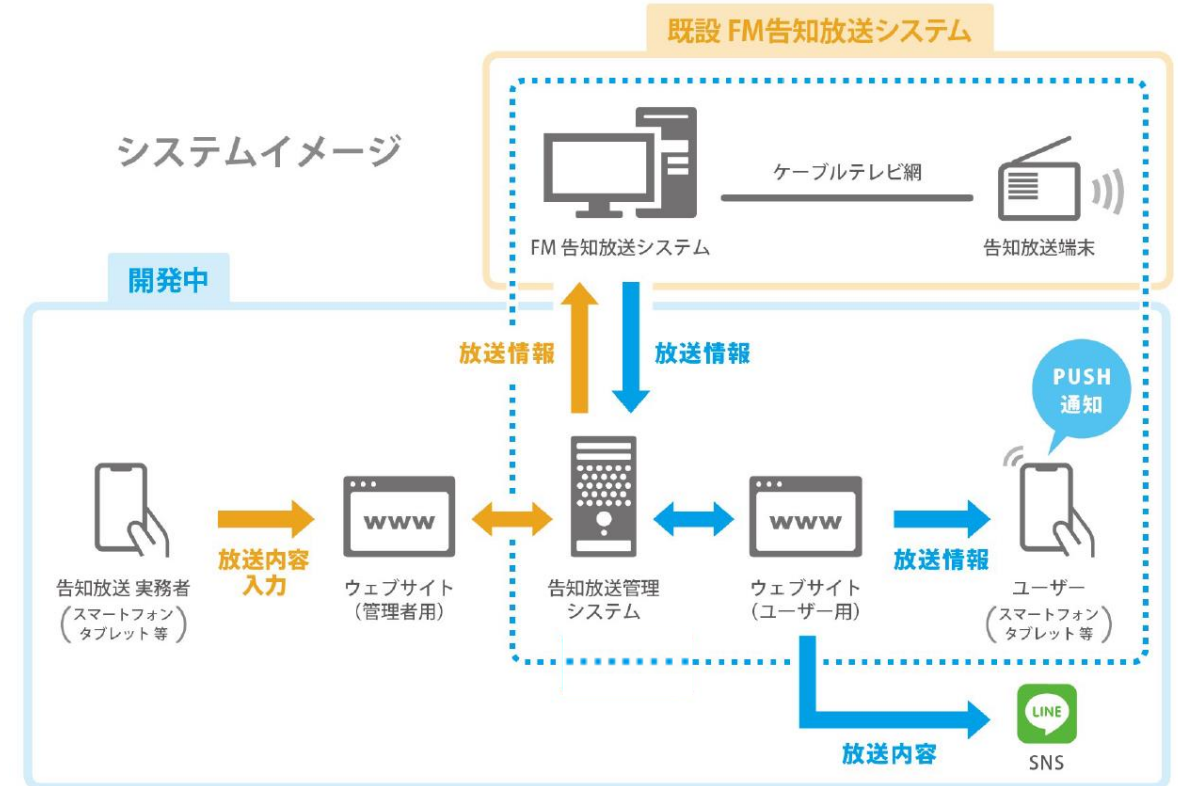


持続可能な地域社会づくりを支援するシステムの提供

自社パッケージソフトウェアの機能強化

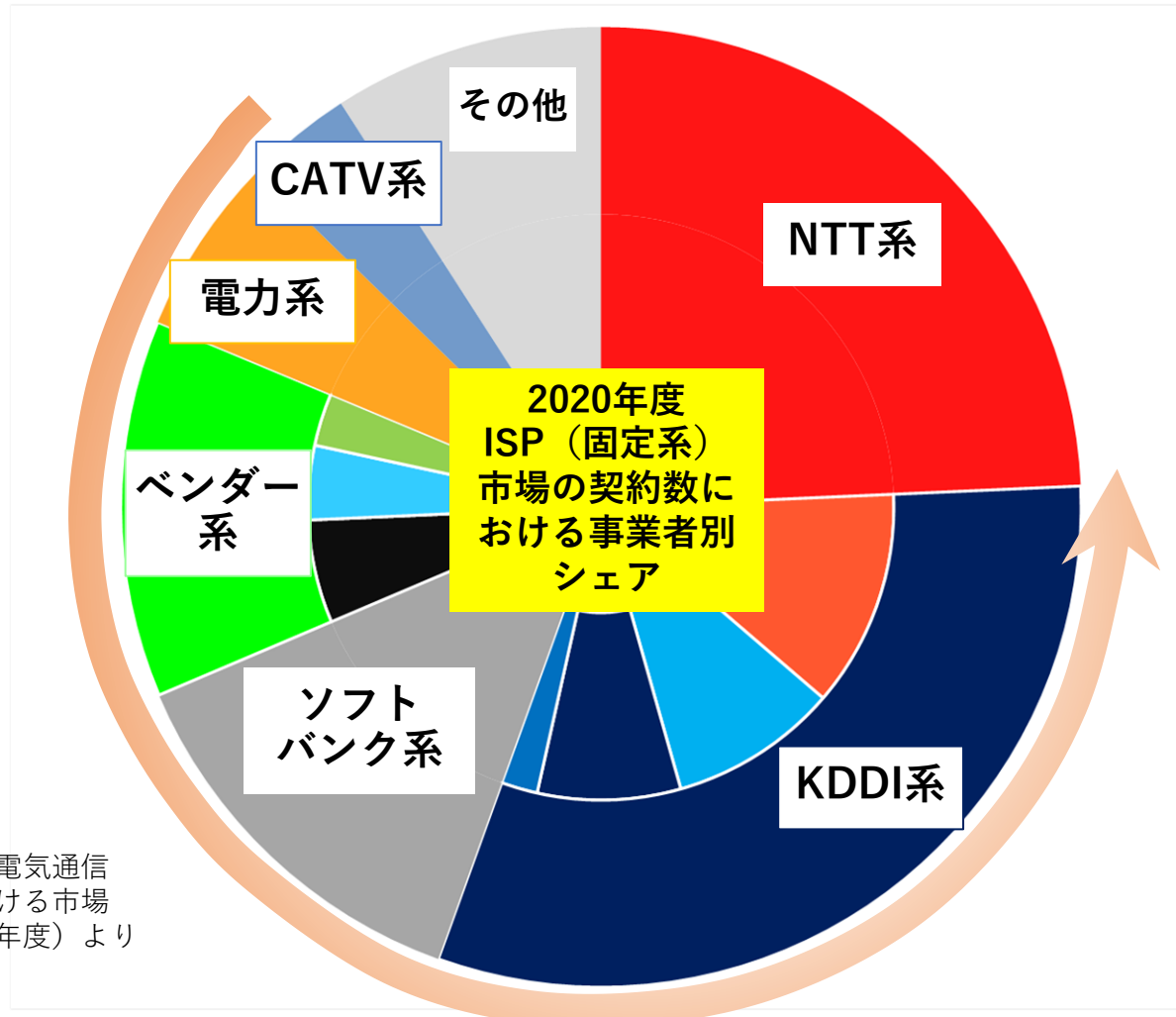


人々のつながりと安心安全をお届けする 防災告知放送システムのSNS連携



当社の取り組み③

CATV事業者に加え、限られた地域で展開している通信キャリア（電力系）
 全国展開している通信キャリア（4大キャリア、メーカー系・商社系）向け**販路拡大**



2020年度ISP（固定系）市場の契約数における事業者別シェア

NTT系	24.3%
KDDI系	31.2%
J:COMグループ	12.0%
ビッグロープ	9.3%
KDDI	7.9%
その他KDDI系	2.0%
ソフトバンク系	13.1%
ベンダー系	12.7%
ソニーネットワークコミュニケーションズ	5.7%
ニフティ	4.1%
その他ベンダー系	2.9%
電力系	6.0%
CATV系	3.6%
その他	9.1%

出典：総務省電気通信
 事業分野における市場
 検証（令和2年度）より

MAKING POTENTIAL A REALITY

GLOBAL NETWORK SOLUTION

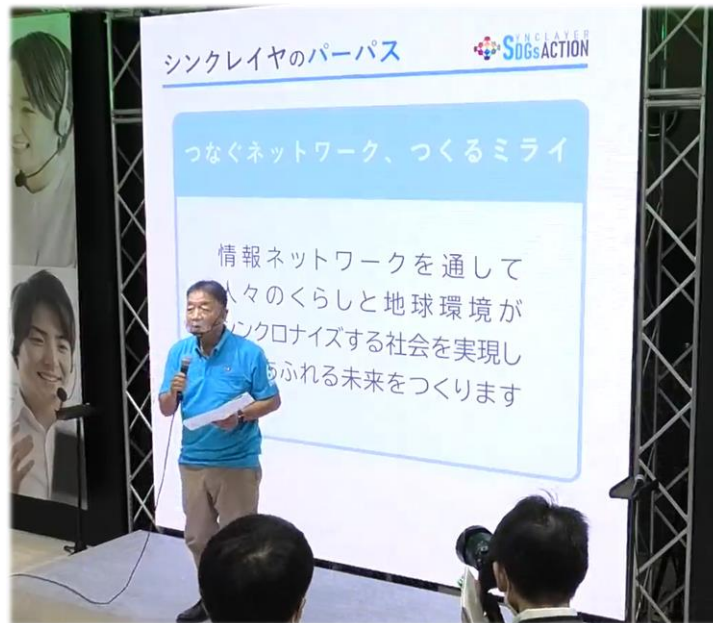
0 5 ESG経営・SDGsへの取組み

2022年7月に**SDGs宣言**、当社Webサイトにも**専用ページ**を開設

2022.07

ケーブル技術ショー（当社ブース）にてSDGs宣言

パーパス、重点目標、今後の取組みについて
代表取締役社長 山口がプレゼンテーション実施



パーパス(存在意義)

つながネットワーク、つくるミライ

情報ネットワークを通して
人々の暮らしと地球環境が
シンクロナイズする社会を実現し
笑顔あふれる未来をつくります



シンクレイヤーは企業の**持続的な成長**と**持続可能な地球環境・社会の実現**に取り組めます

2022.08

2023.01

SDGs推進委員会と3部会体制に変更 KGI/KPI案を本格検討

当社のSDGs重点目標・取組方針をKGI/KPIに落とし込むため、各部会が課題抽出と素案作成



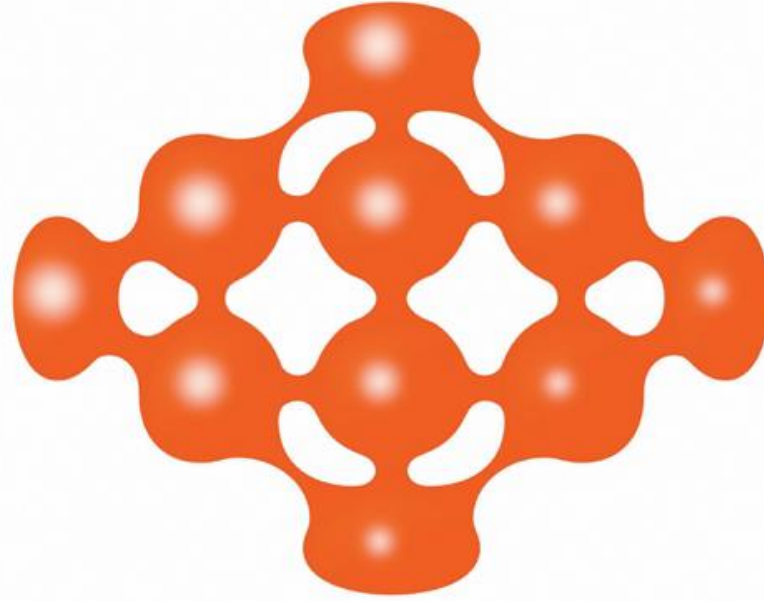
4ヶ月で合計25回以上の個別部会・リーダー会・合同部会を実施

KGI/KPIの達成へ向け取組み中 メンバーからの意見を基に議論。

シンクレイヤーのSDGs重点目標・取組方針

重点目標	取組方針	SDGs
顧客の信頼と期待に応える	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社会のニーズを的確に捉え先進的技術をもって提供する ✓ 顧客エンゲージメントの向上で、潜在的課題を捉え解決を共に図る ✓ 充実したサポート体制で、安定した技術フォローと品質を提供する 	9, 11, 12, 13
ネットワーク環境の創造により新たな人々のつながりを生み出す	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域密着性の高いケーブルテレビ事業者と連携し、情報拠点として地域の発展に貢献する ✓ いつでも・どこでも・だれとでもつながる新たなネットワークソリューションを提供する 	3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
循環型社会づくりに向けた事業活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ✓ バリューチェーンのパートナーシップを深める ✓ 原材料の選定から生産、廃棄まで3R可能な製品を供給する ✓ バリューチェーン全体で温室効果ガスを削減する ✓ 顧客との協働で3Rの仕組みを構築する 	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17
働きやすく、働きがいのある会社をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 多様な人材が互いに尊重し合い、活躍できる環境をつくる ✓ 全ての人々が健やかに生き生きと働ける職場をつくる ✓ 自ら学び高め合い、成長を実感できる人材育成を行う ✓ 社員エンゲージメントを高める制度を設計する 	3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18
レジリエンスな地域社会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域社会や顧客、パートナー企業と連携し災害に強く信頼性の高いネットワークを提供する ✓ ネットワークを活かして地域のつながりを強め、コミュニティの活性化に貢献する 	8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18





SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY

想いが伝わる未来をつくる

MAKING POTENTIAL A REALITY

NETWORK SOLUTION

APPENDIX

2022年12月期 業績（指標）

	2021年12月期 期末	2022年12月期 期末	前年同期比 (増減額／率)
自己資本利益率 (ROE)	20.9%	5.7%	▲15.2%
1株当たり当期純利益 (EPS)	225.03円	63.67円	▲161.36円
1株当たり純資産 (BPS)	1,092.38円	1,150.21円	57.83円

2022年12月期 連結業績（損益計算書）

（単位：百万円）

科目	2021年12月期 通期	2022年12月期 通期	前年同期差	前年同期比
① 売上高	13,061	9,965	▲ 3,096	76.3%
② 売上総利益	2,978	2,073	▲ 905	69.6%
③ 販売費及び 一般管理費	1,769	1,659	▲ 110	93.8%
④ 営業利益	1,208	414	▲ 794	34.3%
⑤ 経常利益	1,319	438	▲ 881	33.2%
⑥ 税金等調整前 当期純利益	1,320	438	▲ 882	33.2%
⑦ 法人税等合計	448	143	▲ 305	31.9%
⑧ 親会社株主に帰属する 当期純利益	871	294	▲ 577	33.8%

2022年12月期 連結業績（貸借対照表）

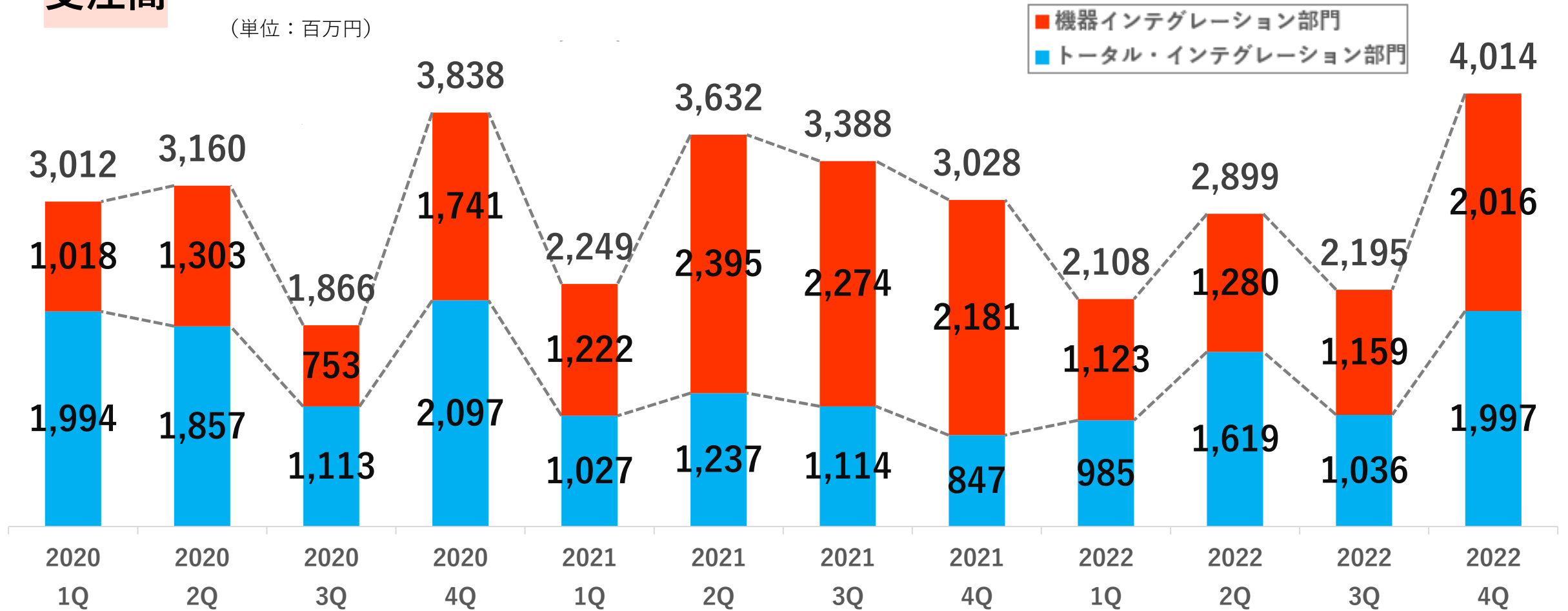
（単位：百万円）

	2021年12月期 期末	2022年12月期 期末	前期差
① 流動資産	7,112	8,043	931
② 固定資産	3,223	3,289	66
(うち 有形固定資産)	2,190	2,246	56
(うち その他固定資産)	1,033	1,042	9
③ 資産合計(①+②)	10,335	11,333	998
④ 流動負債	4,212	4,930	718
⑤ 固定負債	1,082	1,070	▲ 12
⑥ 負債合計 (④+⑤)	5,295	6,000	705
⑦ 純資産合計	5,040	5,332	292
⑧ 自己資本比率	48.8%	47.1%	-1.7%

事業部門別 受注高推移

受注高

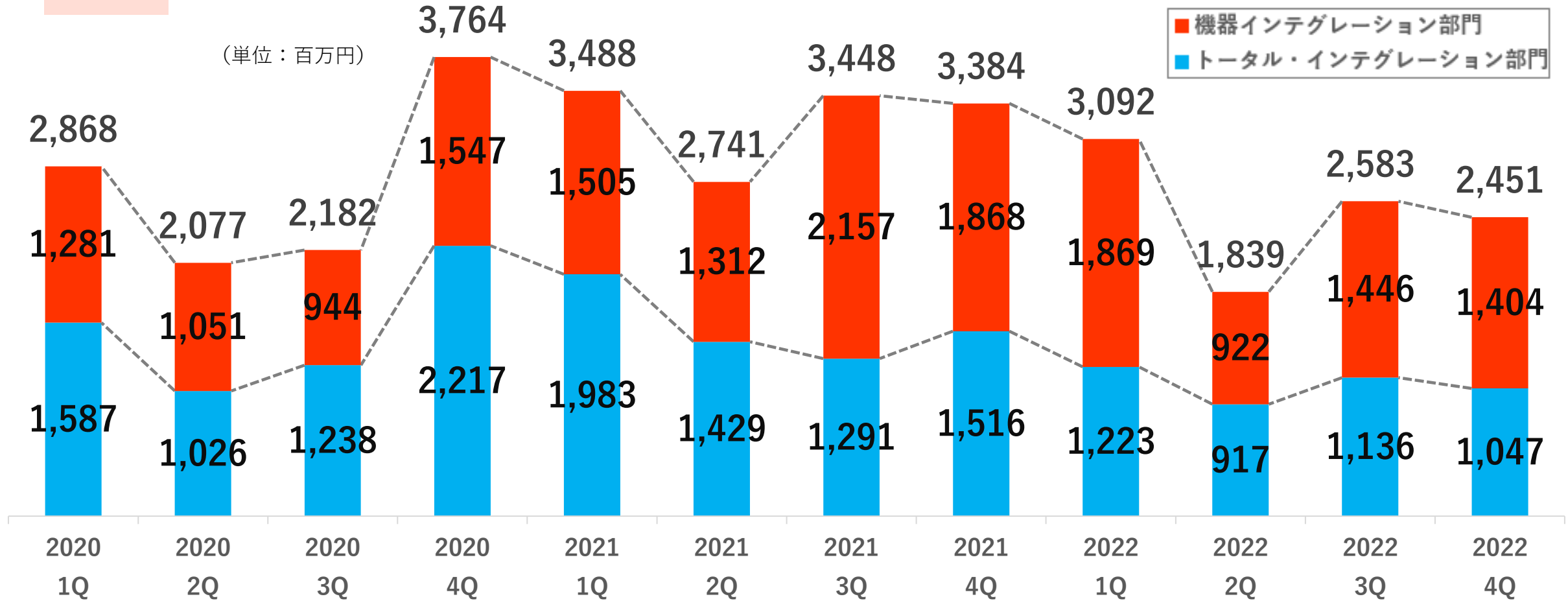
(単位：百万円)



事業部門別 売上高推移

売上高

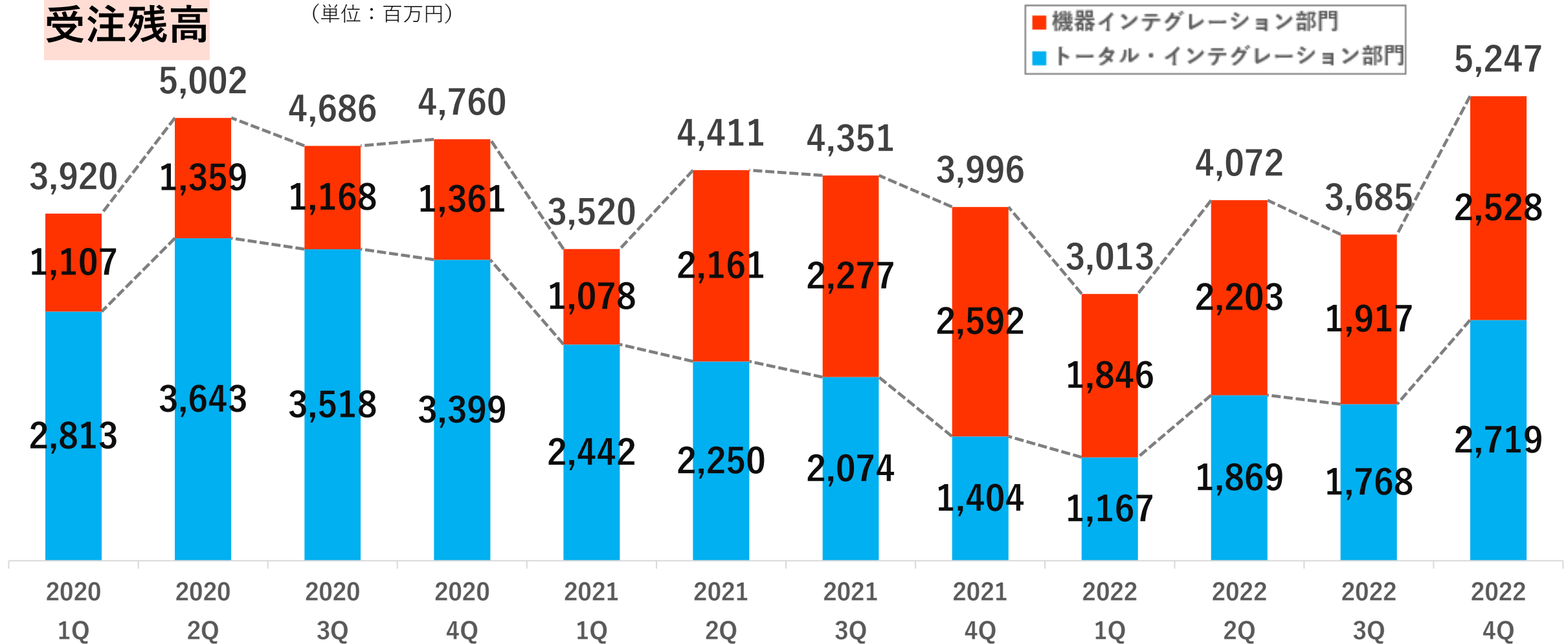
(単位：百万円)



事業部門別 受注残高推移

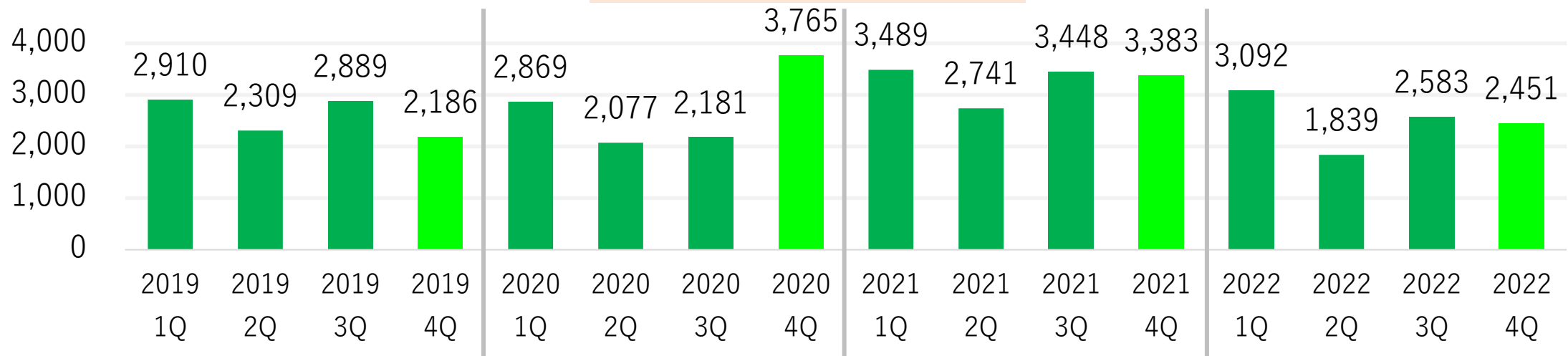
受注残高

(単位：百万円)



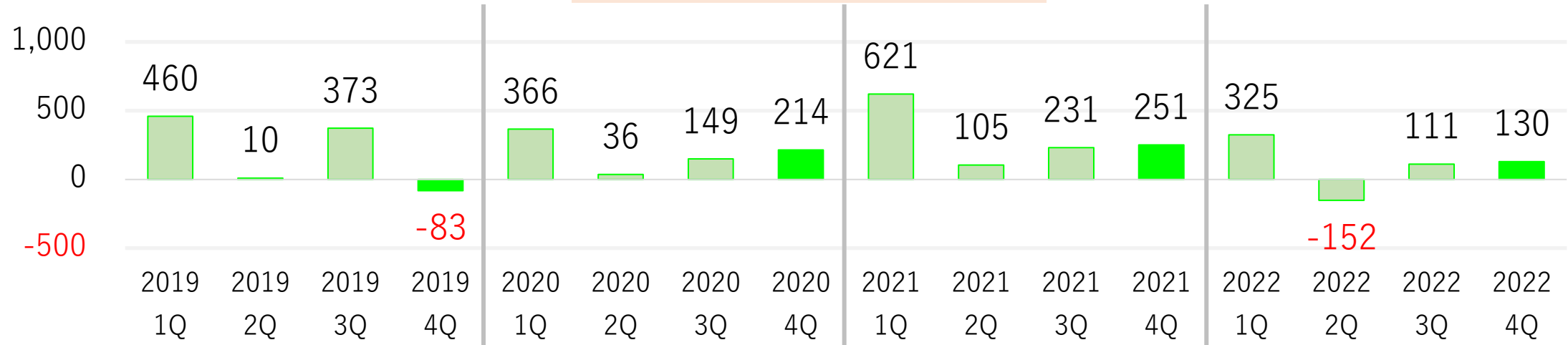
四半期連結売上高の推移

(単位：百万円)



四半期連結営業利益の推移

(単位：百万円)



- ✓本資料は、投資の参考に資するため、シンクレイヤ株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。
- ✓本資料に記載された内容は、公表日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- ✓今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本資料に含まれる内容の更新・修正を行う義務を負うものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
- ✓本資料に記載の数値は、別途注記がある場合を除き、全て連結で表記しております。
- ✓本資料は、提供されましたご本人様限りでご利用ください。本資料のいかなる部分についても一切の権利は当社に帰属しており、電子的もしくは機械的にまたはその他の方法を問わず、本資料の全部または一部を、無断で引用、複製または転送等により使用しないようお願いいたします。

■IRに関するお問合せ

MAKING POTENTIAL A REALITY

シンクレイヤ株式会社

管理本部 総務部 IR担当

TEL: 052-242-7875

E-mail: ir@synclayer.co.jp